

会議名	全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会（ケア基準・標準化グループ）第5回		
日時	2022（令和4）年1月20日（木）10：00～12：00	場所	オンライン（zoom利用）
出席者 役割所属 ※敬称略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・串間範一（会長/ウイング・オブ・ハート）・松本耕造（副会長/清周寮）</li> <li>・前川礼彦（副会長/湘南つばさの家）・江尻飛鳥（研修：長/あい）</li> <li>・大橋達也（広報：長/吾が家）・國分健作（制度政策：副/inn）</li> <li>・合木啓雄（調査研究：副/丸亀おひさま荘）・万治貴史（事務局/カリヨンタやけ荘）</li> </ul>		
／8名			
○協議内容：			
⇒結論			
<p>（8）心理的ケア</p> <p>①利用者に対して心理的な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム内の状況が落ち着かず、職員の離職が続いた。児童相談所や精神科の医師との連携もあったが十分でなく、日常的な関わりが必要と感じた。</li> <li>職員へのケアも目的の一つであった。</li> <li>・利用者への対応や関わり方、見立ての幅も広がり、ホーム内の安定につながった。また、職員の離職も止まった。</li> <li>・今後、精神科医との連携が深まれば尚良。</li> <li>・職員と心理職の勤務を重ねる中で聞き取り、必要に応じてフォローしている。</li> <li>・利用者を理解する上で、心理職との協働は非常に有効であろう。</li> <li>・医療的ケアが必要な利用者にはホームとしてできる限りの支援を行う。通院同行や服薬管理。</li> <li>・被虐待体験、発達上の特性・課題を持つ利用者は多く、心理職の必要は感じるが、自治体の補助がついていない状況。</li> <li>・心理職は子どもの抱えていることを知り、対応できる専門家。一緒に働いていて大変勉強になっている。専門職に頼り過ぎずに、職員も心理的な知識・ケアの積み上げが必要。</li> <li>・利用者のカンファレンスに児童精神科医に入ってもらっているホームもある。オンライン環境の活用もできるか。</li> <li>・児童相談所心理職の活用。月一程度の面談だと不十分な面もある。</li> <li>・実態調査でも心理的ケアが必要なのは明らかとなっている。</li> <li>・自身の存在自体への不安感、PTSDやトラウマの影響の大きさを理解すべき。</li> <li>・家庭からの入居ケースだと心理的なケアの介入のハードルが高いか。しかし利用者の情報の乏しさは他種別よりも顕著。見立てをする上でも心理職の介入は有効。</li> <li>・地域の無料相談（若者こころのケア）を活用しているケースもある。</li> <li>・無料低額診療事業や自立支援医療、障害手帳の活用も。</li> <li>・自傷行為などの行動化、表出について男女差は考えられるか。→正確なデータはないが、女子の方の割合が高いように思う。</li> <li>・児童相談所の心理職との連携…地域、児童相談所により差異がある。</li> <li>司面談の際に心理職が同行してくれる場合もあり、ありがたい。</li> <li>利用者自身が訪問する場合もある。支援にどう活かしていくかが重要。</li> <li>心理面談の設定が難しいケースも。相性も重要。</li> <li>・配置前は個人情報の取り扱いもあり、情報共有が難しかった。配置後はホームの心理職同士での連絡、連携が有効になっている。</li> <li>・児童相談所の会議に参加させてもらい、要望や実情を伝える。</li> </ul>			

### (9) 自主性・自律性を尊重した日常生活

#### ①利用者自身が自分たちの日常生活について主体的に考えるように支援する。

- ・自主性を求めるには成育歴によるハードルが高い。ホーム内の生活で自己肯定感を高めていく必要がある。
- ・利用者参加のミーティングを月1回開催。
- ・夕食のメニューの希望を聞いたり、仕事選びの際に意見を言いすぎたりしないように心がける。
- ・自己選択をする上で、失敗の保障をすることが大事。
- ・相談すること、大人に頼ることが大事だと考えている。失敗が想定されても、事前に相談があればOK。将来的に困ったとき相談できるようになるかが重要で、まずは受け止めるように心がける。
- ・「当たり前前の生活」少しずつ伝える。これまでと違う価値観を伝える。
- ・一人ひとりに対して、特別扱いをする場所。
- ・家庭的な当たり前前、日常生活の当たり前前を伝える。自分のことは自分でする。
- ・9か月就労もせず、学校も行かずに待った。本人のスイッチが入ってからは順調に自立に向かった。長い目で見守る姿勢、時間が必要。
- ・長らく議論されてきた内容。待つ期間はお互いに苦しく、対応に悩む。
- ・自由と無軌道は違う。大きな枠組みの中で見守りつつ、枠の外に出そうな時は関わる。
- ・利用者から話を聞いてホーム側が了承したら、すぐに取り組む。話をしたかいたが良かったと感じる。
- ・話してくれたことへの感謝を伝える。
- ・許される体験を積み重ねる。その上で対話が大事。
- ・退居者の存在の活用。ホームから出たからこそわかることを退居者との関わりから伝える。
- ・現利用者にお年玉をあげた退居者がいた。人のためになるのが夢だったと語ってくれた。
- ・諸先輩が待つことの重要性を説いてくれた。実践を重ねる中で、見守られている感覚を持てる期間の重要性を理解した。
- ・選択肢に潜むリスクをしっかりと伝えた上で、待つ。それがないと無責任な関わりに。

#### ②自由時間や余暇を主体的に過ごせるよう支援する。

- ・地域の活動には参加していないが、海水浴やスノーボード等のホーム行事を企画。
- ・通信制高校生に全日制や定時制を勧めることもある。ホームや職場以外の人間関係を増やしてほしい。
- ・地域自治会の美化活動や餅つきに参加。赤い羽根共同募金活動に参加、感謝される体験。
- ・行事、余暇活動に注力している。活動を通して、職員との距離感が縮まることもあった。
- ・そこでの経験が趣味につながった利用者もいた。
- ・豊かな経験をしてほしい。家庭からの入居だと全く社会的経験を積んでいない場合もある。
- ・大人自身の経験を伝える。共に遊び、共に汗をかく、共に語る。
- ・日々の暮らしも大切だが、行事イベントは思い出に残りやすい。
- ・自治会活動で運動会や地引網等に参加して、地域の方と交流。
- ・人生は出会いで激変する。様々な人との関わりがないとできない。きっかけをホーム側から提供することも。

#### ③自立に向け、経済観念や金銭感覚が少しでも身に付くよう支援する。

- ・小遣いは渡していない。当初は計画を立てるのも難しい。金銭管理について専門家に話してもらう機会を作っても、実体験が伴わないと入らない場合もある。

- ・予算を立てて、使ってもらおう。
- ・積み立て用の口座や現金はホームで預かる。
- ・計画通りに使えているか振り返る。安定していけば、本人管理としている。
- ・見学、入居の時点で丁寧に説明するようにしている。
- ・療育手帳ケースで使い方のバランス以前の問題が生じる場合もある。ライフラインを確保できるような支援が必要になることもある。
- ・キャッシュレス時代。現金や通帳を預かるだけでは十分ではない場合もある。
- ・スマホ決済やオンライン決済等の見えづらい金の動きが多くなっている。
- ・18歳成人となってこれまでの金銭管理のスタンスが通じない部分もある。
- ・使うのは一瞬、貯めるのは時間がかかる。ことをしっかり伝える。
- ・ホーム内支援で完結する必要はない。実体験が伴わないとわからないことが多い。
- ・視覚から収支を把握できるように工夫。出納帳の活用等。
- ・徐々に自己管理できるように支援。ステップハウスの活用。
- ・退居後の生活を想定してシミュレーション。収支を考えることの意味を伝える。
- ・口座を複数開設してもらって用途を分ける。
- ・入居中はうまくやりくりできていた利用者が退居後に崩れた。環境が一変することを理解して、段階的な支援が必要だとも感じる。

各ホームで金銭や通帳を預かる際の規定はあるか？

- ・預かり規定あり。預かり金の出し入れは本人と職員のサイン。入居申込書に記載。退居時には受領書にサイン。出納帳あり。
- ・入居時に委任状を作成してもらおう。第三者（児童相談所や親等）のサインもらう。
- ・銀行に協力してもらって、金銭管理についての講座を準備している。
- ・18歳成人に係る金銭管理の方法や考え方について整理が必要か。
- ・未成年後見が4月で切れる。成人後は弁護士と個人的な契約を提案しているが、利用者が乗ってきていない。

次回	2022年2月17日（木）10:00～12:00 場所：オンライン（zoom）
----	---